

報 々 会 窓 同 工 会

発 行 所

福島県会津若松市
徒之町 1 の 3 7

発行人 吉田一栄



今躍進の創立八十周年

校 歌

嶺は秀づ
磐梯山
水は湛ふ
猶苗代
これぞ乾坤
秀雲の
精気鍾り
成る處



八十周年を迎えた母校



創立八十周年を
迎えて
会工同窓会々々
記念行事実行委員長
吉田 一栄



創立八十周年を迎えて
福島県立会津工業高等学校校長 小森 五良

今秋、母校が呱呱の声をあげてから八十年の星霜が流れ去りました。創立当時染織・漆工・窯業の三科からなり、生徒数も一〇〇名に満たない学校でスタートしたのですが、現在は繊維工業・工芸・窯業・化学工業・機械・電気・電子・建築の八学科を擁し、生徒数も一、二〇〇名と東北地方きっての名門校に伸展して参りました。これも先輩諸兄のご活躍と母校に対するご支援の賜であると考え、これ一重に同窓生諸兄の

に同窓生諸兄のご協力・ご支援は大きく、高額のご寄付を頂いた方々も数多くおられ、それに加えて卒業して間もない同窓生からも母校愛に燃えた多くの基金が寄せられたことは頭のさがる思いがしました。このように多くの方々の



落成なる / 会工会館

このたび母校の創立八十周年を記念して会報が発刊されますこと、まことにご同慶に堪えません。母校も明治三十五年に設立の認可を受けて以来、本年度で八十年を迎える。旧制工業学校としては県内で第一号に誕生した学校です。従って当時の学校名は福島県立工業学校と称し、一般には「県工」と呼ばれておりました。その後川俣に染織学校ができたため、昭和四年から会津工業学校と改称、さらに戦後学制改革により会津工業高等学校と改称されました。その間一万六千数百名に及ぶ有為の人材を産業界に送り出し、全

国各地において活躍されておられることはまことに心強い限りでございます。また明治二十八年に本郷町に窯業徒兄弟学校が設立されたのであります。明治三十七年四月本校の開校に際し若松市の漆器徒兄弟学校と共に校に吸収合併され、その後昭和二十六年に会津第二高等専門学校本郷分校として再現し、窯業科のみの学校として地域の振興に尽くして参りました。昭和四十四年に車輛整備課程が増設され、同時に本校に移管設置された学校で、特に事業主との緊密な連携による特色のある学校として、毎年県内定時制高校では最高の志

願倍率を誇る全国的にも有名な学校です。ご承知のとおり一昨年に、卒業生の方々が中心となりまして母校創立八十周年・分校創立三十周年記念行事並びに記念事業実行委員会が結成されて以来各種の行事や事業を進めておりました。その間に、おける実行委員の方々の心より感謝申し上げる次第であります。記念行事としては去る九月二十六日に、聴衆にすばらしい感動を与えた吹奏楽団第二回定期演奏会をはじめ十一月二日の特に同窓生の皆様からの物心両面にわたる温いご支援の賜でありまして、ここに

裏心より感謝申し上げます。第であります。私達教職員一同は、生徒の学力向上はもとより、特にスポーツなど部活動を活発にして、生徒の人格形成の為に、いま一層の努力を重ねて参る所存でありますので、今後共一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。



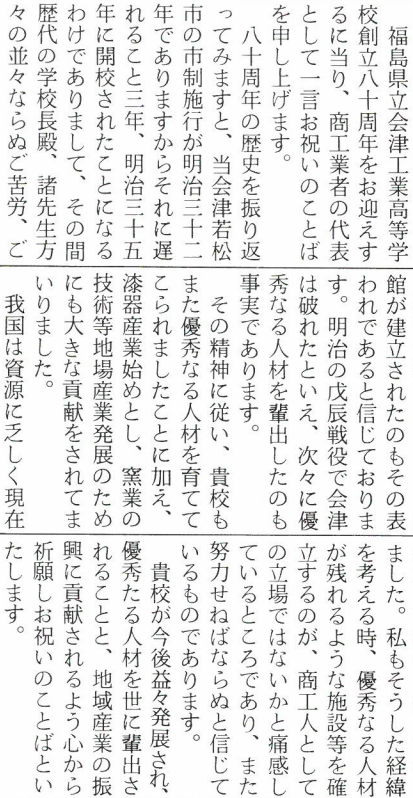
長鄉隆弥

歴史と伝統の地ここ会津に本格技術の学び舎が誕生し、早いもので八十年の星霜が流れ去りました。会津地方には古くから漆器、染織、窯業に代表される数多くの伝統産業を有し、それを学問として伝える教育の機会に恵まれなかった藩制時代を経て、工業教育の振興こそが欧米先進諸国に追いつく途であるとの考えから、明治三十七年福島県立工業学校として開校以来、設けの整備がなされ、現在のような優れた環境下で勉学に勤むことのできる皆さんは本当に幸せであると感じます。しかも貴校は、会津地方の中核的工業高校として技術レベルは県内においては勿論、全国的にも高い水準を維持しており、その業績に対し、心からなる信頼を寄せておるところであります。このことは生徒諸君の研鑽はもとより、歴代校長先生はじめ、PTA対し敬意と感謝の意を表する次第であります。

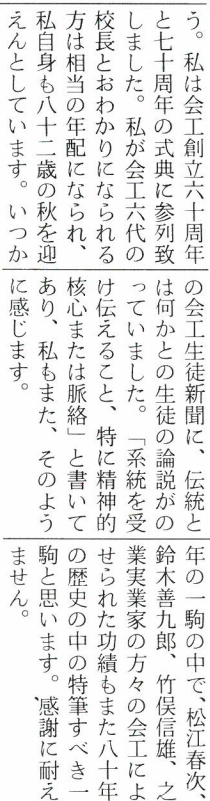
本日の記念事業を最も有意義なものとするためには、貴校の「教育目標」や「われらが信条」を再確認されさらに盛大な実りある九十年、一〇〇年へ向け第一歩を踏み出されることであろうと確信いたします。

終りに福島県立会津工業高等学校の益々のご発展と皆様のご健勝を心より祈念し、ご祝辞といたします。

会頭堀川三之助



六代校長



河野幸男

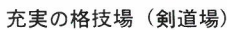
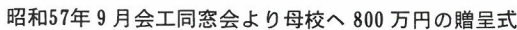
う。私は会工館立六十年と七十周年の式典に参列致しました。私が会工六代の校長とおかりになられる方は相当の年配になられる私自身も八十二歳の秋を迎えんとしています。いつか	の会工生徒新聞に、伝統とは何かとの生徒の論説がのっていました。「系統を受けて伝えること、特に精神的核心または脈絡」と書いてあり、私もまた、そのように感じます。	年の一駒の中で、松江春秋鈴木善九郎、竹俣信雄、之業実業家の方々の会工によってせられた功績もまた八十年の歴史の中の特筆すべき一駒と思います。感謝に耐えません。
--	---	--

会工八十周年の歩み

明治35・9	本校設立の認可、福島県立工業学校と称する
明治37・2	本校舎の竣工
明治37・3	学則および定員の認可を受け生徒募集
	染織科、漆工科、窯業科
明治37・4	開校式挙行
明治38・3	第一回卒業式
大正6・4	応用化学科を増設
大正8・4	応用化学に醸造部を増く
大正8・11	創立15周年
昭和3・4	帽子の白線を廃し、白線染抜のリボンをつけることに決定
昭和4・4	福島県立会津工業学校と改称
	昭和4・10 創立25周年
	昭和7・3 本校寄宿舎より出火全棟全焼
	昭和10・6 帽章の文字を福工より会工と改める
	昭和12・10 第2部応用化学科を増く
	昭和14・3 故鈴木善九郎氏より学校敷地および運動場を寄付
	昭和14・4 機械科を増設（故松江春次氏の寄付）
	昭和15・4 第2本科機械科を増設
	昭和16・4 機械科を増設、第2部応用化学科を廃止、生徒定員

変更、染200名、漆100名、窯125名、
応化225名、機215名（5年生）150
名、（3年生）第2本科80名
昭和16・10 創立35周年
昭和18・4 学制改革、本科修業
年限5ヶ年を4ヶ年とする。応用
化学を工業化学科と科名変更
昭和19・4 電織科募集中止
昭和20・4 電気通信科を増設
昭和21・4 染織科復活、専修科
機械科募集廃止
昭和23・4 学制改革により工業
高等学校となり、福島県立会津
工業高等学校と校名を変更
福島県立若松工業学校廃校に伴
い、同校建築科を本校に移管増
設、電気通信科は電気科と科名
変更
昭和29・11 創立50周年
昭和36・4 全日制、電子工業科
別科産業科新設
昭和37・4 全日制、精密機械科
新設
昭和38・4 全日制、化学工学科
別科産業科新設
昭和40・4 繊維工業科、工芸科
窯業科、工業化学科、化学工学
科、機械科、精密機械科、電気
科、電子科、建築科（各科定員
150名）、産業科（電気工事課程
溶接課程共に定員40名）
昭和40・11 創立60周年、体育館
落成
昭和42・3 各科定員145名となる
繊維、窯業、工業科学、電子、

昭和43・4	工芸科に女子の入学を認める
昭和44・3	別科産業科（溶接課程）廃止
昭和45・4	各科定員135名、車両整備科に第1期生11名入学
昭和46・4	各科定員131名
昭和46・11	創立70周年
昭和47・3	別科産業科（電気工事課程）廃止
昭和47・4	各科定員126名
昭和49・3	工業化学科の募集を中止、代りに化学工学科募集、定員が80名となる
昭和51・3	精密機械科の募集を中止、代りに機械科募集、定員が80名となる
昭和54・3	弓道場完成
昭和55・2	格技場（剣道場）完成
昭和56・1	粉セッケン製造プラント完成
昭和56・3	デザイン専攻科を廃止
昭和57・3	建築科、電子科実習室を新設
昭和57・4	化学工学科募集定員40名となる（一学級減）
昭和57・5	前庭ロータリーの造園
昭和57・11	創立80周年



地域会工会だより

東京会工会の近況報告

東京会工会
会長 井上眞市



前会長佐藤勝次氏の葬儀

にさいし、学校長・同窓会
長はじめ多数会員のご参列
をいただき、東京会工会と
して改めて深く感謝の意を
表します。
当会は、恒例の幹事会お
よび総会を実施し、少しで
も多くの、しかも若い会員
の参加をのぞんでいます。表
し近況報告をかね重ねて
感謝の意を表します。

創立八十周年を お祝い申し上げます

東海会工会
会長 川島 巖

祝母校創立八十周年

近畿会工会
会長 原田 利良

近畿会工会便り

近畿会工会
前会長 井上武美

同窓会の皆さんお元気で
すか。京阪神地方は秋も深
まり、今が一番過ごしやす
い季節です。
さて、会工八十周年記念
式を目前にして、母校並び
に会工役員の方々の御苦
労は如何ばかりかと推察致
し居ります。
近畿会工会も記念事業と
記念式典の御成功を、心か
らお祈りして居ります。
ここで近畿支部の状況を

次の様に、御報告申し上げ
ます。
昨年は十一月八日(日)に
第二十三回総会を開催致し
ました。
会場を北梅田の「新北京」
に移し、三十名を越す会員
諸兄の御参加を戴き誠に盛
会でありました。
殊に当日は母校より小森
五良校長先生並びに懐かし
くも私と同級の齋藤恵一先
生にも、わざわざ遠くまで

お出でを頂きました。記
念事業
御両所からは、記念事業
に際してばかりでなく、飛
躍的に発展を続ける学校の
近況や、今後の抱負を詳細
に御説明賜り我々一同感銘
を新たに、理解を更に深
く致しました。
中でも小森校長先生の長
い長い年月母校に流いでこ
られた御愛情と、御尽力に
は、只々頭の下がるのみで
ありました。

さて今年の近畿会工会総
会は、会場を宝塚市の鐘紡
会館に遷して行うことに
しております。十一月十四
日(日)です。御案内申し
上げます。
それに先立つ二日の式典
には原田利良新会長も出席
申し上げます。

福島会工会の近況

福島会工会
会長 星 榮祐



福島会工会は福島県庁関
係十六名、北芝電機十六名、
東北沖電気八名、東亜栄養
関係六名をはじめ各方面で
重要なポストについて活躍
して居られる会員数七十名
で組織して居ります。
昨年七月に暫らくぶりで
会合をもちましたが、はじ
めて会工に出席された方
が多く、仕事の面でも今迄何

回かお会いした方が同窓生
であったことに驚き且つ、
非常な親しみを覚えたもの
でした。又一面識もなかつ
た人が同窓生であると言っ
た事、又旧知の間柄の親し
みが湧く同窓生意識の素晴
しさをつくづく感じたので
した。今年も間もなく十月
十四日に福島会工会を開
催する段取りになって居り
ますが、輝かしい母校創立
八十周年記念式典を盛り上
げるためのムード作りが出来
れば幸甚の至りと考えて居
ります。ここに母校創立八
十周年記念事業の成功を祈
り、福島会工会の近況報告
と致します。



福島会工会総会親睦会 頑張れ応援歌を全員で！

いわき会工会の近況

日本化成同窓会
会長 佐藤 実



「本日はおめでとうござ
りです。昭和二十七年学窓
会を出てこ(日本化成)に
入社、早や三十年、そして
今日は永年勤続表彰を迎え
る。感慨もひとしおかと存
じます。中略……本日は
入社当時、或は学窓での思
い出で語り合いたい」
これは同窓会による表彰
文である。

会津会工会の 現状について

会津会工会
幹事長 山内 清司



昭和五十三年会津地方に
ある地域会工会・職域会工
会を一本化して、その組織
の強化をはかるべく、どう
いう議題が若松会工総会
の席上提案され、当時の
若松会工会長大竹蔵氏が東
奔西奔されましてその実現
に努力されました。
そして二市五郡の地域・
職域会工会のご賛同を得ま
して設立総会を十月二十五
日東山愛友ホテルで例年
ない一四六名の出席を得て
開催致しました。その総会

人はそのまま会員に留ま
っていただいているので、
その数三十余名である。
これらの人達で前述の永
年表彰、或は管理職登用祝
宴定年退職者の送別会等が
年中行事となつて親睦を深
めている。一泊旅行も計画
したが会費がたらず、こ
こ二年は中止をしている。
夏の高球野球、昨年今年
といわき会場となつたので
陣中見舞かたがた応援団を
行つただけ、やはり休日に
あたらなと会社を休んで
までとは行きかねる。ベス
ト4ともなればハッスルす
るのであるが頑張りつては
しいものです。
近着の同窓会々報、回覧
に付してあり遅ればせとは
いえ生のニュースに、夫々
が感慨をこめて喰い入つて
いる。今後ともよろしく。
八十周年の成功をお祈り申
し上げます。

の席上初代会津会工会長と
して大竹蔵氏を推戴するこ
とを満場一致で可決しまし
た。
この会津会工会の誕生は
同窓会活動の大きな原動力
となり、会津地方同窓生の
交流と親睦ははかられるこ
とになりました。
会津会工会長として大き
な巧績を残された大竹会長
も健康上の理由でその職を
辞されたので昭和五十四年
の席上提案され、当時の
若松会工会長大竹蔵氏が東
奔西奔されましてその実現
に努力されました。
そして二市五郡の地域・
職域会工会のご賛同を得ま
して設立総会を十月二十五
日東山愛友ホテルで例年
ない一四六名の出席を得て
開催致しました。その総会

生研化学株式会社
井上眞市

新田 義一
(大正8年 窯業科卒)
会津若松市米代1-1-56
TEL 0242(27)2590

丸善石油店 片平石油販売株式会社
特約店 東山温泉 (株) 愛友ホテル
☎(0242) 26-3344
片平産業株式会社
代表取締役社長 片平忠正
本社 会津若松市本町1番1号 ☎(0242) 27-3600(代)

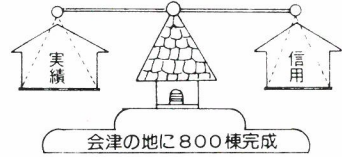
千葉県市川市大洲4丁目12番17号

フランスベッド
クリナップ流し台
蔵王 印 家 具

家具のマルケン

取締役社長 村 松 賢一郎
会津若松市御旗町 電話27-6629
会津若松市七日町 電話27-3630

分譲地・注文住宅・建売住宅・土地買入



三ツ口住宅株式会社

本社 会津若松市南千石町4-4
☎(0242)27-2089(代)



今日の幸せも繁栄も
みなご先祖のおかげ
保志のほし
豊かな心を創る
保志グループ
●保志志 ●保志志卸セン
ター ●保志販売 ●会津木工産業(有)
ホシゼン商事(株) ●ホシ・ド・ブラジル

代表取締役社長 保 志 昭 一
本社/本町9-23/☎0242-26-0717

料亭



会津若松市栄町
電話 代表(22)0399番

心に休日を。

日観連

新湯

福島県会津若松市芦ノ牧温泉

TEL 上三寄局(0242)92-2301(代表)

誠意と技術で奉仕する
若松ガスグループ。

若松ガス株式会社

若松ガス化学工業株式会社

若松ガス燃料機器株式会社

若松ガス不動産株式会社

代表取締役社長 高 木 厚 保
会津若松市千石町4番16号 ☎0242-1311(代)

電気工事のことなら なんでも相談

水六電気商会

取締役社長 水 野 力

会津若松市山鹿町
電話(0242)26-3636

株式会社 若松タクシー

本社 会津若松市鶴ヶ城前
電話 代表(26)6655

ご旅行のアドバイザー
新婚旅行から団体まで

若タク旅行センター

電話 代表(26)7235

会津漆器製造卸ギフト用品販売卸

AK(有)会津クラフト

代表取締役 平 山 恒 雄

会津若松市本町八番四十六号
電話(0242)27-8741(代)

給油・洗車・六カ月点検・民間車検・自動車保険

株式会社

会津ゼネラル

本社 会津若松市門田町年貢町大道西五

TEL 27-2400

一般建築設計施工

伊東建設工業株式会社

代表取締役 伊 東 正

福島県会津若松市門田町
大字年貢町字大道西六三番地
電話 二七-八〇五八番

販売 鉄鋼、金物、工具、セメント、標識
建設機械

先産業株式会社

代表取締役 遠 藤 俊 平

会津若松駅
TEL 二五〇五〇一七
会津若松市北町中沢
TEL 二五-三三四一(代)
(49号線バイパス)
喜多方・田島・只見・福島・郡山

祝創六十年

ふとんのことなら

ふとんのマツタ

藤田製綿工場

会津若松市新横町4-127
電話 27-15034

文具・事務用品・事務機・紙製品・画材用品

書類と文具

吉田ストア

代表取締役 吉 田 栄 治

会津若松市川原町1-9 電話 26-0123

会津会工会

坂下支部

副会長	二 佐 藤 隆 男	町職員
幹事	小 崎 重 信	町職員
副幹事	大 堀 順 一	町職員
事務局長	本 田 文 孝	町職員
庶務部長	伊 藤 隆 明	町職員
青年部長	鈴 木 昌 昭	町職員
青年副部長	鈴 木 昭 雄	町職員
監事	佐 藤 一 雄	町職員
監事	福 地 悦 郎	町職員
監事	細 川 信 博	町職員
監事	高 橋 久 信	町職員
監事	高 久 昭 之	町職員
監事	宮 平 博 光	町職員
監事	宮 平 久 威	町職員

写真撮影・カメラの御用は

(昭和6年12月卒)

山内写真館

会津若松市日新町12-28
電話 27-2042番



割烹

萬花楼

大塩 唯 男

会津若松市東栄町
電話 27-四五六七番(代)

あなたは何段? 最高位はどなた?

『酒豪コンクール』開催中!!

くくつ 飲めば 飲む程 豪華賞品

れれつ 安くて うまくて 雰囲気満点

た たつ ノドに自慢は「カブク」でナジヨダシ

水商売らしい 金工の店にあり

(小座敷も) 利用下さい

会津若松市上町8-1(スズメ肉点南角) ☎25-00040

酒亭道場

平野建設株式会社

取締役社長 平 野 博 久

TEL 三三-一三三三(代)

有 鈴木相互建設

代表取締役 鈴 木 昌 明

TEL 三三-一三三三(代)

株式会社 鈴木木工務店

取締役 鈴 木 良 作

TEL 三三-一三三三(代)

精建建築設計事務所

所長 磯 目 昭 雄

TEL 二四-一七五四

剣 龍 社

所長 佐 藤 富 士 雄

TEL 三三-一三三三(代)

佐藤齒科医院

(K三十二年卒) 佐 藤 清 吉

滝谷建設工業株式会社

代表取締役社長 目黒和雄

常務取締役 目黒幸衛

TEL(0242)二四-一三五二

特定建設業許可(特-53)第5019号

許可業種 土木・建築・舗装・上下水道施設工事

一般建築士事務所 第7(104)1021号

JSA認定製材工場 第LU115184号

TEL 二七-3770

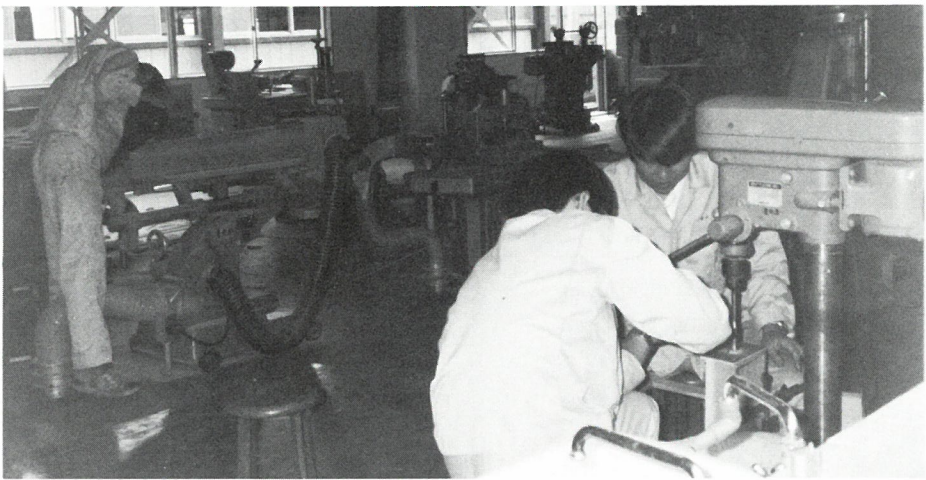
TEL 二七-3770

TEL 二七-3770

各 科 だ よ り

繊維工業科

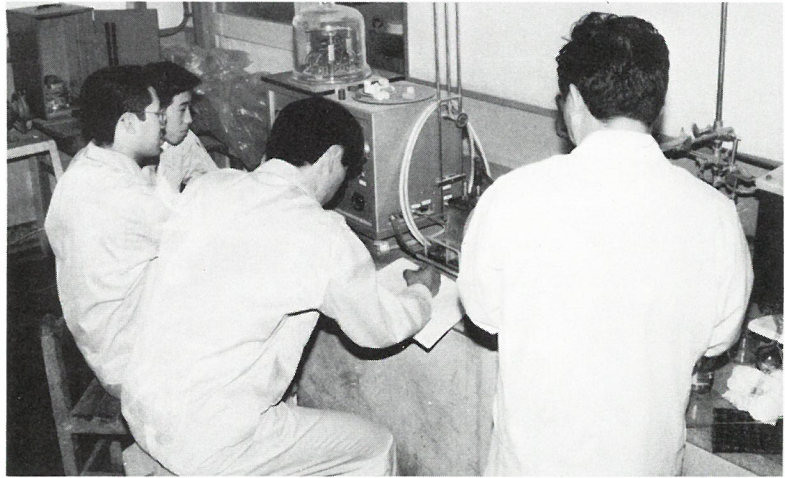
昔の染織科は昭和三十八年以來「繊維工業科」の科名となつていますが、生徒達の学習内容も社会の進展と入学生の実態に応じて幾度の変遷し、現在は「高校生としての一般教養と繊維産業に従事するための基本的事項」を中心に「工業基礎」「工業数学」を交えて、「より豊かな工業人」を目指して頑張っています。施設設備について、場所は昔と殆んど変わらず、施設・設備ともに文部省基準の約四十%弱で、今後の充実を期待しており、建物の「鉄筋コンクリート三階建」を実現するよう県当局に陳情中です。また校舎の外には池を掘り魚を泳がせ、花を植え、樹木を茂らせるなど環境の整備にも力を注いでいる現状です。



工芸科 機械加工実習室

工 芸 科

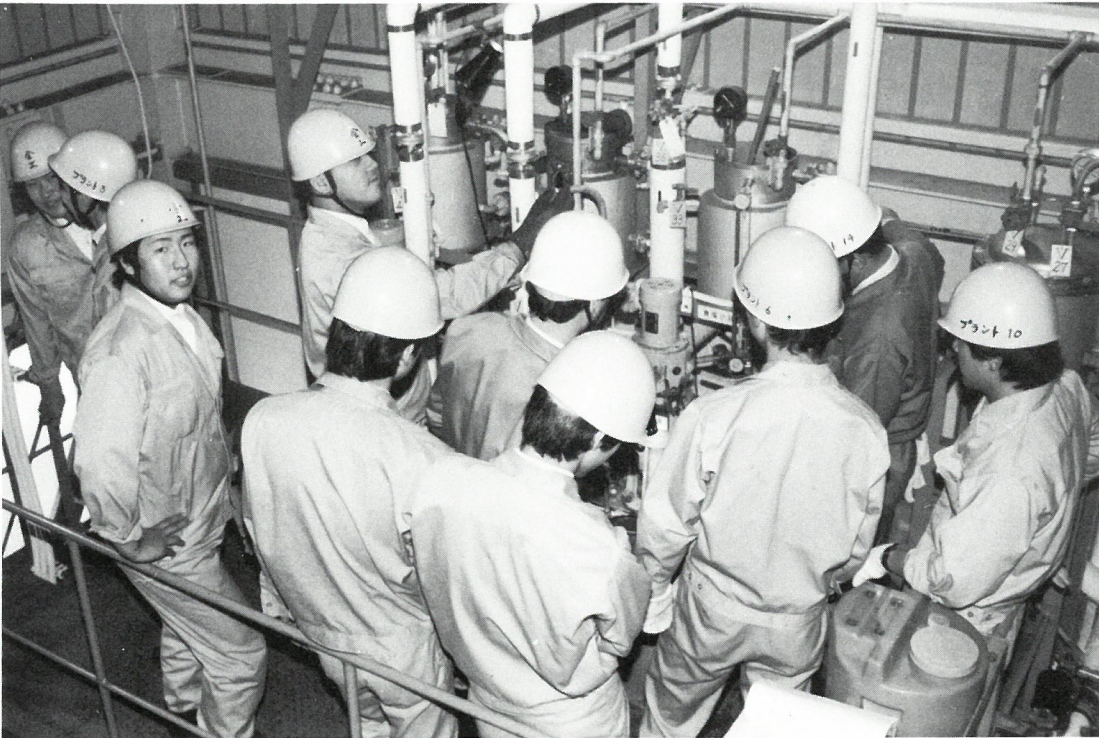
漆工科として発足当時より、多くの先生方の情熱あふれる研鑽により、現在の科の姿を宮々と築いて来られた。しかし昭和五十五年、山内清司先生が定年退職により、又昭和五十六年度、河内利家先生が二松工業高校へ転任され、現在科の職員六名のうち四十代半ばを最高齢者として、平均年齢が三十三歳と若がえりました。いつの時代も科の重鎮として、存在感のある役割が居られたのです。幾分今後の教育指導に不安感はあるかもしれませんが、でも若輩者でも失敗をおそれることなく、生徒達と積極的な協力し合いを深め、お互い協力し合っている科であること、責任をもった指導のもと、やがて、今迄の科の方針を踏襲しながら新しい歴史をつくりて行きたいと考えております。先輩同窓各位



窯業科 材料計測実習

窯 業 科

窯業科は本校における各学科の中では創立以来の科名を用いている唯一の課程であります。本校は今年で創立八十周年を迎えるわけであり、その間課程の教科指導内容はその時代の業界や卒業生の進路に応じて改善されて現在に至つたものであります。現在も課程の教科指導内容は日本の産業界の現状と期待にたえて大きく変わろうとしております。それは窯業界におけるファイレンセラミックスの台頭であります。当科では従来の陶磁器関係実習とならんでファイレンセラミックスの実習を大幅に取り入れようとしております。これは本県教育界でも大きな期待をもつて注目しているところであり、このための教科・実習内容、施設・設備についてそれぞれ



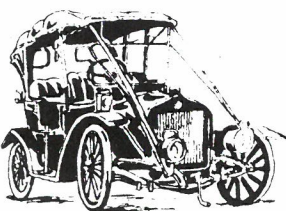
化学工学科 粉セッケン工場での実習

化学工学科

学校創立八十周年を迎えた現時点における化学工業の現況を紹介する。
一、新教育課程の発足
モノクロ写真が新設暗室で化工科職員によって指導されている。複雑高度な現代産業界と多様化した生徒の工業基礎の学科で、工業と数学の両方に専門教科の基礎を養成する画期的なものである。
二、石けん工場の運転
三年生による年八回の実習で一回の生産量五十kgの割合で稼働している。二七〇ml、総経費七千円のプロントは、天ぷら廃油の利

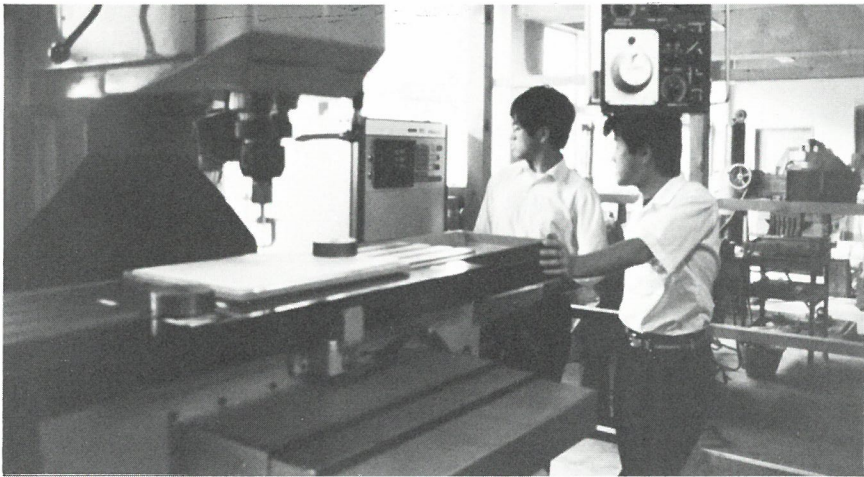
用とその製造課程のユニークさでマスコミ機関でも取り上げられた。この装置導入により化学工学科の教育課程はコア(核)を得たことになり意義が大きい。
三、学級削減
学校の適性規模の立場から県教委の指導で二学級削減となった。五十九年には三学級になる。周到緻密な指導を期している。
四、進路
経済界の低迷により、今年度は厳しい状況にあるが、学級担任の努力と、歴史的な業界とのかわりでの乗切ろうとしている。出生率の減少から長男が多く、地元志向型が半数を越す状態である。関東・神奈川・千葉地域の大企業と本科の歴史的關係は是非続けたいと思う。更に地元企業誘致

と、生徒の基本的な生活態度及び基礎学力の養成は急務である。
五、最後に
設備充実率六十一%、施設現有率六十八% 卒業生は、化学工学科のみでも十七回目に卒業生を送り、その数千名に達する。職員数十三名、一層の充実発展を望む次第である。



機 械 科

まず第一番に取り上げなければならぬものは、N G フライス盤が設置されたことである。設備一式で金千四百五拾萬円とか、とか言うのは県の財務課で入札の上、現物を学校に届けたという訳であるから、重量が三トン近くもあり、春休みも何のその、科職員全員出勤、ワッショイ、ワッショイと引っ張ったり、押したりの大活躍、用務員室の前から廊下を引っ張って工場内の定位置に運ぶまで六時間にもわたる大奮闘、廊下のPタイルは重圧に耐えかねて、あちこちがピリッピリッと裂け、工場入口は機械が大きくて搬入出来ずカモイまで外して、無事に搬入が完了した始末。本当にご苦労様でした。設置後は、ゴミがかららないように透明な間仕切りを設け、床はジュウタンを張り、すばらしい実習室になったのである。研究熱心



な先生が多く、本当にうれしい悲鳴がある程、特に Y と S 先生は N C 専従職員のように保守管理と共に効率的実習の研究に毎日励んでおられる。次に今年の一年生より開始された工業基礎と称する実習である。M 科担当の簡易小型万力の製作には、昨年一年間予備実習を実施し改善、改良を加えて今年より正規授業として開始されたのであるが、I・S 先生が中心となり、指導法をまとめてくれたのである。多謝さて開始してみると、何も判らないローテーションで廻って来た生徒に導入の時間もあらばこそ、直ちに旋盤作業で溝切り、ねじ切りと従来の一年ではやらないハイクラスの作業、他方铸造では鋳型作りから直ちに融解、鋳込み作業と息も止まらぬ早業の実習内容で指導の先生も生徒二十人に四人という配慮ではあるがトイレに行くひまもない程の忙しさである。時代の変遷を痛切に味わうこの頃である。

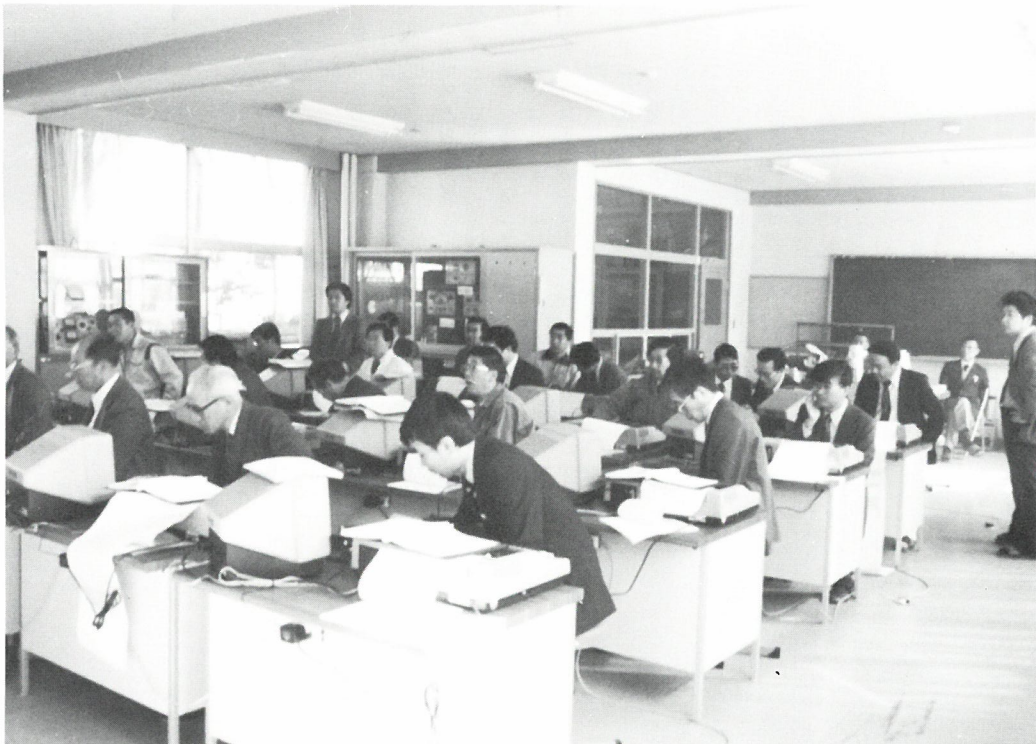
電 気 科

今年もまた就職シーズンを迎えた。今年は不況のものと就職シーズンに厳しく、例年なら求人に来られる企業がひっきりなしの状態であったのに比べ、今年は数える程しかない。国鉄は全面採用ストップ。その他は電気メーカーでも採用しない所がいくつもある。それでも、幸いに電気・電子関係では求人数は卒業生数を上回るかに上回り、選択さえ誤らなければ全員就職できる状態にある。振り返って昨年をみると、電機業界の好況に加え、卒業生の質がよくなったため、近年にない好成績であった。主な例をあげると、国際電二名、NHK 仙台放送管一日から三十一日まで十日間実施した。結果は次の通りで、まずまずの成績で如く東京電力四名、東北電



電気科 実習風景

昭和三十六年に電子科が設置されてから今日までの先生方の近況を書いてみます。(一)内は現在勤務されている所です。なお先生方の敬称は紙面の都合上略させていただきます。菊地殿・電子科創設に多大なる力を尽されましたが、昨秋、御逝去されました。保志和吉(勿来工校長)創設時には電気・電子科長を兼ねられた色々な面で御苦労をなされました。鈴木利明(教育事務所会津駐在管理主事)第一回生



電子科 校内職員のパソコン研修会

として電子科の基礎を固められました。五十嵐房吉(平工教頭)二代科長、41年度担任、施設・設備に大変力を入れて下さいました。赤城良一(川俣高教頭)三代科長として科の発展に尽くされ、後に教務課長、青津直(湖南高教頭)39・42・45・48年度と担任を一番多く持たれました。喜多方工とは行ったり来たりで次の方がおります。坂本一郎40年度担任、田辺精治43・46年度担任、東條憲49・51年度担任、宮崎伊都夫50年度担任、佐藤春樹52年度担任、本田毅53年度担任、渡部衛57年度一年

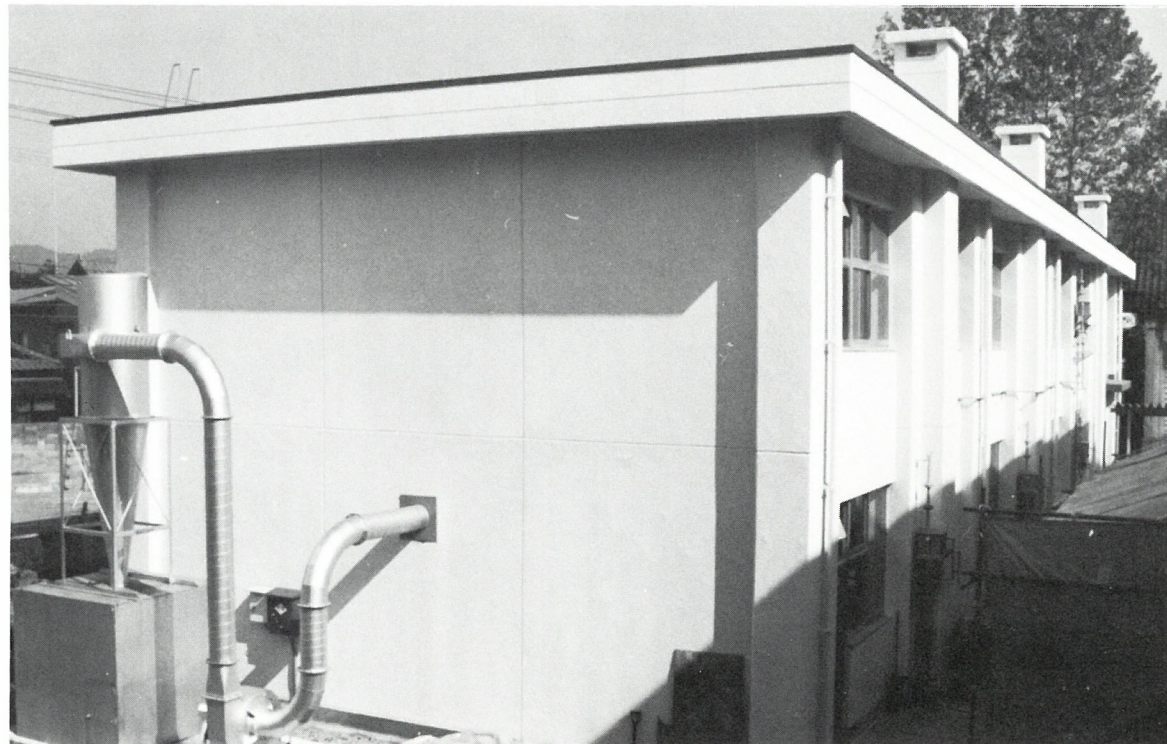
秋保誠一(会津中央高)44年度担任。小林修(西会津高)47年度担任。津高(若松ガス)渡部与志雄(第一電通)はそれぞれ御活躍なされております。現在は高杉可勝以下、谷内豊54年度と現一年の担任、川瀬勲55年度担任、小沼岑生現三年担任、菅野誠現二年担任と阿部広、鈴木保広、吉川久雄の新旧で勉学に運動に生徒指導にと張切っております。その他教科、実習に御指導下さいました方々のお名前を紙面の都合でのせることが出来なかったことを深くお詫言いたします。

建 築 科

今年も異常気象ともいえる夏が過ぎ、めっきり涼しくなった朝晩の清寒さが移った言葉に上るようになった。九月に入って例年のことなのだが三年生はあわただしく自分の進路を模索し始める。八月三十一日付朝日新聞(4)面には、就職戦線「色濃い不況・合理化の勢下にあることは、一人一人が認識していることは言うまでもない。現在、在籍者の五十五%が就職している。解説欄には高卒男子に影響集中という小見出しで警鐘を発している。機会をみては、この事を除けば、これらの者は数人に解説しているのだがに悩まなければならない。

果たしてどのように受けとめているだろうか。まことに残念なことなのだが、大数の生徒は他人事のように考えているのである。たしかに新聞の報道のようには技術系優先とはいえず、建設産業も不況の波をまともに受け、昨年の求人状況より数人会社数において二割減は確実とみてよいであろう。地元企業においてはこれより遥かに上回る予想である。すべてが厳しい状況下にあることは、一人一人が認識していることは言うまでもない。最後に例年のことながら就職者の問題の対策がある。会社選定の段階においてキメ細かな指導助言が必要と考えられる。

それなのに大多数の者が、この現実を眼を背けているのである。私共は、この事実を放っておくわけにはいかない。生徒たちを叱咤激励して、彼等の目指す企業に就職出来るよう指導しなければならぬ。



完成なった建築科実習棟

各部のプロフィール

体育班

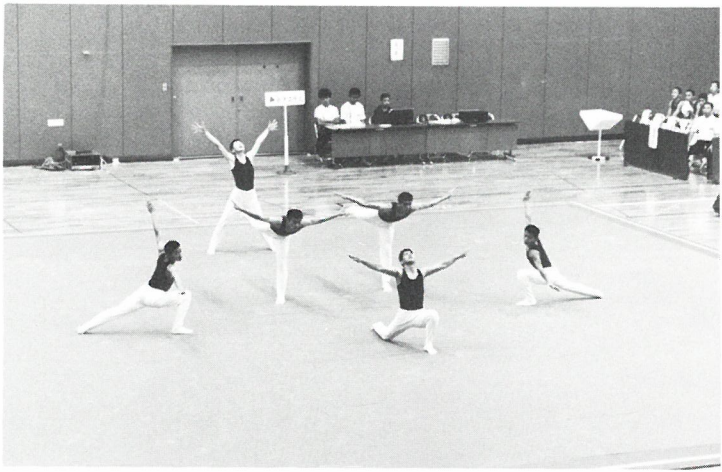
陸上競技部

本校陸上部は、新入部員二十数名を数え二、三年生を含め五十名以上の多勢となり各種目にエントリーが出来、活躍が期待出来るようになった。

また市宮陸上競技場も完成し、使用出来るようになってからは十分練習が出来て部員も密のある練習をしてその効果も挙がっている。暇をみては、多くの先輩がグラウンドに姿を見せてアドバイスをして下さるので部員も心をひきしめて練習にとりくんでいる。

先生や先輩のアドバイスにより、その効果も序々にあがり、春のⅠ日大会で唯一人と淋しい限りであったが去る九月に開催された県新人地区予選では総合優勝ができて、二位に大差をつけて優勝が出来た。

今後は、県新人大会まで全部員自己の能力を十分発揮し、県大会に優勝すべく



昭和57年度 全国高等学校新体操選手権大会での演技

体操部

苦しい練習に耐え頑張っている。また長距離部員も十月下旬に行われる全国高校駅伝県予選会上位入賞を目指し、毎日の練習に力が一段と加わっている。

来年度は、今年以上の成績をあげるために、冬期間の練習を大切にし全部員は練習に一段と努力することを約し、現況報告といたします。

今年度の各種大会も、すでに国体、新人大会を残しすでに終了した。今年の体操部は、部員数の減少などで、器械をやめて新体操一本にしぼり強化に努めてきた。新体操は、いかに東北大会の予選を勝ち得て、全国大会に出場するかがむずかしい。毎年であるが、この大会を目標にすることによって、全国大会の予想がたてられる。

今年のチームは三年生一人、あとは二年生だけの

若いチームであり、大会では常に不安がつきまとった。六月に、全国大会の東北予選が行われ、国体三位、個人総合で二瓶武彦三位入賞と一応の成果を上げ、全国大会の予選を勝ち得た。

ス
キ
ー
部

我スキー部は、シーズンよりもシーズンオフの方が期間が長く、シーズン前のいろいろなトレーニングによって、基礎をつくっておかなければ本番になって、良い結果を得ることができなくなるため、シーズンオフの練習がかなり重視されてくる。

体力をつけ、足腰を強く
 する為に走る（マラソン等）
 ことを中心に、また、ただ
 走るだけでなく走っている
 途中にインターバルや、ダ
 ッッシュなどいろいろな取り入
 れ忍耐力、そして持久力を
 つくりあげる。そして、十
 月からシーズンに入る前ま
 では、アルペンとノルデッ
 クとに別れてトレレーニン
 グを行う。そのトレレーニン
 グ法といえば、ノルデックは
 練習時間の半分は、走りこ
 んでそして、残りの時間で
 チューブ引きや、ストック
 ワークなどを行う。アルペ
 ンの方は、ストックワーク、
 ナーキートトレレーニン
 グ、

水泳部



しかし、ライバル校である酒田東高校に負けたことが選手達に相当の刺激となり八月の全国インターハイで勝つことができた。団体七位、また二瓶武彦が個人総合四位、種目別では棒二位（銀メダル）と健闘し、全国に会津工業の名を上げてくれた。全国大会が終るとすぐに国体の東北予選が仙台市で行われた。この大会は、二位に入賞しない国体に出場できないので、やはりきびしい大会であった。結果は、団体総合二位に入

スキー部

我スキー部は、シーズンよりもシーズンオフの方が期間が長く、シーズン前のいろいろなトレーニングによって、基礎をつくっておかなければ本番になって、良い結果を得ることができなくなるため、シーズンオフの練習がかなり重視されてくる。

体力をつけ、足腰を強くする為に走る（マラソン等）ことを中心に、また、ただ走るだけでなく走っている途中にインターバルや、ダッシュなどいろいろな取り入れ忍耐力、そして持久力をつくりあげる。そして、十月からシーズンに入る前までは、アルペンとノルデックとに別れてトレーニングを行う。そのトレーニング法といえば、ノルデックは練習時間の半分は、走りこんでそして、残りの時間でチューブ引きや、ストックワークなどを行う。アルペンの方は、ストックワーク、キートントレーニング、

柔道部

は少数精鋭で部員十五名、全員レギュラーとして活躍したことが特色である。来年こそ地区大会優勝、県大会上位入賞を目指し全国大会出場者を送り出すよう努力したい。

柔道部

厳しい練習を耐えぬき今日に至った。その過ぎ去った日々の中で、反省すべき点をいくつかあげることが出来る。柔道部内での団結も、その頂点に達することなく終わってしまったし、目標であった県大会にも、どの試合もあと一歩というところで敗れてしまった。やはり試合に勝たなくては、それまでの苦しい練習も無となるのだと思う。

バスケット部



柔道の練習でしか得られない、精神の鍛練、技の向上を三年間で少しでも部員にうえつけ、あとと一歩で泣いた今年の反省を生かして、現在、新設された同窓会館（柔道場）で猛練習に励んでいる。又同窓生諸兄には、これから、尚一層の御支援をお願いし、我々も、いまだ果しえない新しい記録を目ざし、会工柔道部の伝統を築きあげたいと思う。

昨年度四位、今年度八位以内ということ、県大会の戦績も一応、安定してきているもの、それ以上の壁を突破できないでいる。「攻撃的なディフェンス」「素早い攻め」をモットーに身長を壁を突破しようと努力したが今のところ果たせず。

しかし、今後の見通しは明るいと思う。素人ばかりではあるが、一年生の入部者に身長一八〇cm以上のものが三人あり、これを練習

軟式庭球部

により、身長の低い選手と同じような素早い動きをできるようにして、今までのモットーを崩さずに続けていけば、今まで県大会三位が最高位の壁は、必ず破れるものと確信しています。

軟式庭球部

トの使用日が極端に少なくなり、荒れた狭い学校のコートで精一杯練習をしているのが現状です。しかし、施設の困難にも負けず、昭和五十四年度の県大会新人戦の団体戦では初優勝を飾り優勝旗が初めて会津に来ました。今年度のインターハイ会津地区大会では、二、三年生のペアで団体優勝を飾りましたが県大会の三回戦で優勝校である内郷高校に善戦したもののやぶれました。

去る九月一日から三日まで行われた五十七年度の会津地区新人戦では、団体、個人戦とも優勝を飾り、来る十月十日、十一日の県大会では持てる力を十分発揮し頑張りたいと思います。

バレー部

バレー部

年生二人で構成されています。二年生が少ないので一年生は目下、体力づくりをベースに、基本練習を通して技を磨きあげ、一日も早く二年生に追いつけ追いつけをモットーに励み、きたる新人戦に意欲を燃やしています。

今年度の成績をふりかえると、地区大会は、新人戦を除いて、すべて優勝し、気を吐いて頑張りましたが県インターハイでは、調子が今一つ上がらず、気の弱さから、ベスト8でせり負けてしまいました。この悔しさは青春の思い出です。そして後輩達にこの悔し涙を嬉し涙に変えてもらいたいと申し送りました。

今後は、地区大会優勝はもちろん、県大会優勝を目指し、先輩達に負けない伝統を築き上げるつもりです。そのためには、新しい部員一同一丸となって、苦しい練習に耐えて早くチームをつくりたいと思います。



昭和57年度 第11回東北高等学校バドミントン選手権大会初優勝

バドミントン部

ちに恵れることを幸せとして、これからも精進してゆきたい。

五十七年度における本校バドミントン部の活躍はめざましいものがあつた。その一つは三年連続インターハイ出場であり、なんといつてももう一つは東北選手権大会団体優勝、個人戦ダブルス優勝ということである。をうち建てたところだ。

我が目も疑うほどの大偉業であつた。柴紺の大優勝俵を生徒が手にした時は、万感胸に迫るものがあつた。これはひとえにOB会の方々の力、あるいは協会の方々の御助力があつてはじめて成し得た大偉業であらうと思つた。

しかし、私はあえて生徒をはめてやりたい気持ちに駆られる。なぜなら、正直

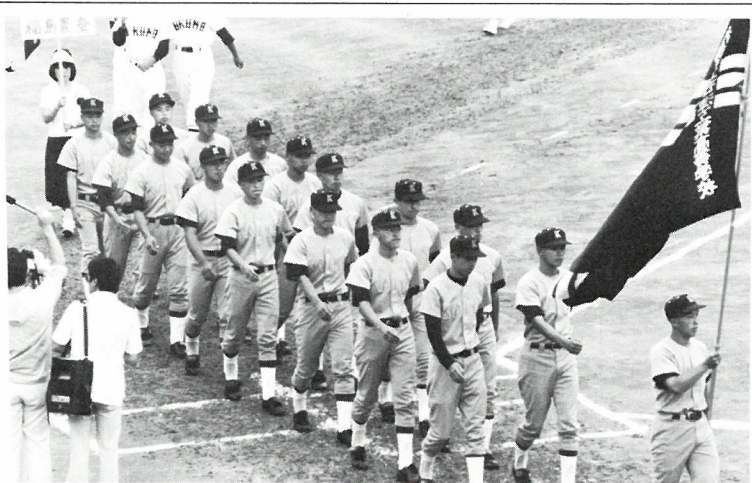
卓球部

部員は三年三名、二年七名、一年十三名おりますが七月の総体で団体、個人ともとれず口惜しい思いをしたところだ。八月十四日にはOB、現役合わせて六十名近くの盛大な親善大会をひらき、技術交流、気力充実の有益な一日になりましたが、OB会の建直しを計り永峰武俊(43E卒)さん高橋浩幸(55K卒)さんの二人を幹事に、コーチに会工卓球部全盛期の谷川嘉次さんが入ることになりました。九月の全日本地区予選では三人が代表をとり、県の大大会、新人戦をめざしてた

野球部

ゆまぬ努力をしているところ
です。精神力、気力の高
揚を第一の重点項目にして
いますが、先輩諸公のご声
援をお願いします。

にして克ちえた栄冠だからだ。気力・体力・技量を極限まで求め尽くして手にした金字塔だからだ。私は生徒に対して熱い拍手を送ることを惜しむまい。そしてこのような素晴らしい生徒た



④ 第64回 全国高校野球選手権福島県大会

六敗で勝率五割のチーム力が記録されている。内容はベスト8回、ベスト16二回であり代表校に敗れること二回という結果であった。あと一步の壁を突き破るために、指導者スタッフは英知と経験を結集し、野球技術に優れた人格圓滿な人材を育て、指導を加えていかなければならない。

サッカー部

部員数四十数名の大世帯である。今年のインターハイはベスト8で福島高校と対戦し、延長戦で一点リードしながら、最後に逆点負けをしている。やはり精神的な弱さを暴露したことになった。一般に部員はおとなしすぎる。

高校野球における勝敗は7-8割かた投手のかたにかかっていると言われている。したがって重点の強化課題は、強じんな体力と高度の技術や安定した精神などを兼ねそなえた強力な投手の育成が第一である。

打撃については試合の課程においては計算が難しい。むしろ鍛錬により計算のできる守備の強化と、内外野手の連携プレーを確実にして守備率を9割8分ぐらいにしなければならない。

OB会や父兄会等と一致協力して県代表になれるチームの育成が念願である。

剣道部

我が剣道部は、昨年とはほぼ同じく十九人で構成されています。

今年の県インターハイは昨年の冬から春にかけて、毎日、毎日休みなく練習に励んできたおかげで、準備勝できました。ここまでこれたのもみんな一人、一人の力を出しきりそれに、みんなの心が一つになって目標に向かっていったからこそできたと思います。

勝つためにはやはり、練習が欠かせません。その練習の中で、みんな一致団結して気合いの入った練習をし、お互いを高め合っています。

来年は今年の準優勝した時のメンバーが、ほとんど残っているのが何れでも優勝旗を、会工剣道部に持ってくるよう、部員全員一致で頑張ります。



弓道部

今年の弓道部は三年生十三名が健在、相当の活躍が期待されインターハイを目指し頑張ってきた。しかし五月の地区大会で団体が一敗で予選を敗退、すつかり歯車が狂ってしまった。個人で三名が県大会に出場したものの成績は思うように出ず、その後県総体予選では団体三位、個人二位と健闘したがインターハイ敗退のショックが大きく意気上がらず、反省多い一年であった。

学芸班

吹奏楽委員会

本校吹奏楽委員会の歴史は古く、会津地区では会津宿練習、県吹奏楽コンクール参加、九月、最大目標である定期演奏会、文化祭参加、一月、アンサンブルコンテスト参加、三月、春季合宿練習等その他演奏会及び他校定期演奏会の協力という具合に結構休みなしに練習せねばなりません。本年度のコンクール県大会では幸運にも入賞の夢を果た



第20回 吹奏楽コンクール福島県大会 82.8.26~29 於 いわき市平市民会館

も例年と変わらず現在のところ一年生は一人もおらず、二、三年生のみの五人でコツコツと活動を続けています。このような状況ではあります。過去五年間の間に会津地区の代表校に選ばれ、県大会二回出演しております。そして、その他努力賞等も獲得しています。今年も人数は少ないが結果として、先輩方に負けない舞台をつくらうと創作劇に取組んでいます。

計算技術部

計算尺部より計算技術部に変更したのは、もう二年前になる。当時、部名を変更することについて、部員の中でいろいろな意見が出されたのは、計算尺そのものに愛着を持っていたのであったからだと思う。またこのごろには、毎年実施していた計算尺競技大会は、参加者が毎年減少したとの理由で実施されず、また、検定試験もなくなり、電卓による計算が主流をしめるようになった。

我々も、電卓を組み入れた部員編成して新たな気持ちで昨年度出陣した。部員数十名で活動し、予算のわく内で新機種を電卓を買って練習を続け、昨年十一月に、県高等学校教育研究会工業部会主催による第一回計算尺競技大会が、郡山北工にて実施された。その結果、参加校九校中、我々は四位にとどまったが、二本松工高を除いた二位以下は、総合得点で差がなかった。今年、練習量や方法を考へ、打倒二本松工高をめざして頑張るつもりです。もう一つの目標は、検定試験が年二回実施されているので、部員全員が、三級以上（現在は二級が最高）の資格が取得出来るよう練習に励んでいます。

社会部

現在の社会部は、全学年合わせて十八人の精鋭で構成されています。昨年は、新入部員が少なく心配しましたが、今年は増加が安心といった状態です。各人の性格も様々ですが、気持ちのよいという点が全員に共通しています。

部の歴史を生徒会誌等でたどりますと、かなり古い様です。昔から受け継がれている気風は、真面目でかつのんびりという点だと思えます。又、先輩方の話によれば、部の中でも地理班と歴史班に二分し、しばしば対立を繰り返していたそうです。専用の部室を持てようになったのは最近の事で、それ以前は社会科教室を利用していたそうです。

演劇部

本校での活発な部活のうちには全く草の陰に隠れるように思っているのが演劇部のようです。毎年、四月の部員編成で入部してくる一年生はほとんどなく、二学期以後、他の部をやめ浪人中の者を説得して部員がなってしまうという状況が今年まで続いていました。今年

古く歴史物の展示も予定しています。顧問の先生も親切に指導してくれま。一人一人の協力を大切に、まとものある、明るい部員にしよう目下頑張っています。

編集後記



秋はまづ目に立つ菊のつぼみかな 去来 日本花ごよみで十一月に選ばれている菊は、昔から最も好まれてきた観賞用の草花であるようです。花によって「大輪菊、中輪菊、小輪菊」などにわけられるわけ方と「和菊、洋菊」という分け方があり我が国は勿論、東洋、欧米各国においても、その優美な姿は単なる観賞のみならず詩歌にもうたわれ人々の心をいやしてくれま。この菊香る十一月に創立八十周年式典を挙行されることは意義深く慶賀にたえない次第です。聞くところによると、この八十周年を記念して、ある同窓生の諸兄にはクラス会を催されるクラスがいくつかあるとか、卒業されて幾星霜を迎えられた今日、多数の方々が出席され学生時代の想い出話し、又今日まで歩まれた人生の喜怒哀楽等の語らいなど秋の夜長

(株) 田部組

田部 憲一

大沼郡会津高田町字高田甲2731
TEL 02425-4-3054

武田土建工業株式会社

取締役社長 武田 信孝
TEL 24-1018

技術とアイデアの一矢建設
ユニークな住いとスマートな店舗造り
若さにあふれる一矢建設へどうぞ



株式会社 一矢建設

代表取締役 山田 尚 会津若松市日新町10-40
電話 26-0018(代)

土木建築請負業

株式会社 丸庄工務所

代表取締役 荒川 英世
福島県大沼郡会津高田町字水戸乙2375
TEL (02425) 4-2011

福島県会津若松市住吉町183

吉田セメント製品販売株式会社

代表取締役 吉田 一栄
電話 27-4455

翔 き

新しい時代を造る 確かな槌音

株式会社 東條建設工業

代表取締役 東條 秀夫

会津若松市蛭養町9-13 TEL 25-3661(代)

福島県会津若松市材木町一丁目10番25番

(株) 吉田建設

代表取締役 吉田 一栄
電話 (0242) 27-0475

土木工事請負業

有限会社 横山組

代表取締役 横山 一郎

福島県大沼郡会津高田町字高田甲2853
電話 02425-4-2047